

もっと もっと あーとの時間

はじめての絵の具指導ってどうする？



(1) セッティング

- 水入れの位置→基本利き腕の方。二人で並んだ状態なら二人の机の間に置いてよい（高学年向き：つまづいてこぼさないため。）
→グループならみんなの中央にそれぞれが置く。
→高学年なら自分の机の下の足元においてもよい。
- 水の量→半分でいい。こまめにかえるが、運びやすいように。
- ぞうきん→基本的に一人二枚。一枚は後片付け・拭きあげ用。一枚は筆の水分をとる用。ミニサイズに切ったタオルの切れっぱし（ミニミニふきふき）を常備しておくとう便利。家庭より不要のタオルを5cm四方くらいに切ってもってきてもらう。かごや段ボールなどにいれて教室においておくとか何かこぼしたり汚したりしたときさっとふける。使い捨て。不潔になるのを防ぐ。）

(2) 絵の具の出し方

- 基本的には箱に入った状態では色相環に並んでいるのでその通りの順番でパレットの小さな方の部屋に出す。（絵の具のお部屋・マンション）
→最初は多色を出さずに指定しながら出す。量は米粒から豆粒大。
→きれいな筆で一色ずつとることを指導します。
→残ったら捨てずにそのまま、次回使います。洗うのは広場だけ。
→パレットのしきりのない広いところは混色用。始めのうちは混色はしなくてよい。（次の機会に混色と重色はお伝えします。）
→始めの油の部分を使わないように。（小さい子は使ってしまう。）

(3) 水の使い方

- 筆をきれいに洗うことが一番重要です。大中小の意味合いをしっかりと伝える。

大：ジャブジャブ池。絵の具をざっと落とすところ。
中：すいすい池。残った絵の具をさらに落とすところ。
小：ゴクン池。新たな絵の具を使うときに筆が飲み込む水場。

- 筆の水分量はぞうきん・ティッシュなどで調節します。

(4) 初めての絵の具からの学習展開（次ページ）

初めての絵の具の楽しさを存分に味わうためにはあまりに規制にとらわれるのもよくありませんが、きちんと高学年までにつながるスキルを徐々に身に付けることは大事です。



それぞれの池に移るときは、必ず、水とり用のぞうきんで筆を絞らせる。（水がどこも同じように汚れてしまうのを防ぐため。）

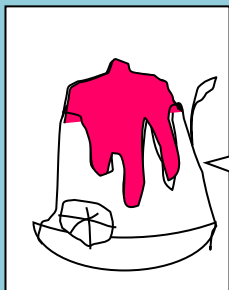
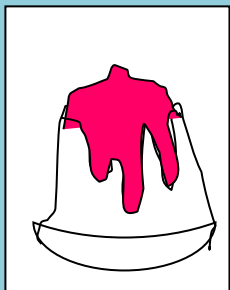
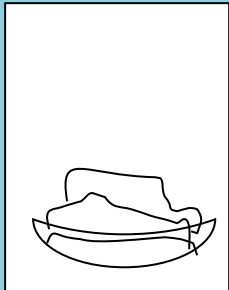
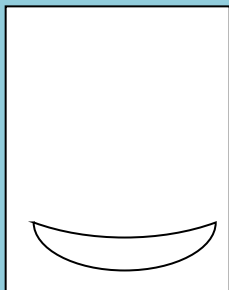
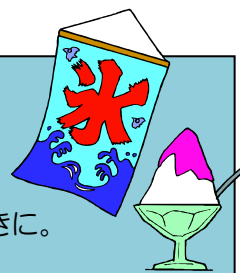
おもしろいかき氷屋さん

(色の濃さを知る遊び)

*B6サイズの青や緑などの濃色の画用紙。

*かき氷をつくる順番で色を描いていく。

- ①お皿をかく。 ②氷をかく。 ③シロップをかく。 ④フルーツなど好きに。
 (白い絵の具) (好きな色で)

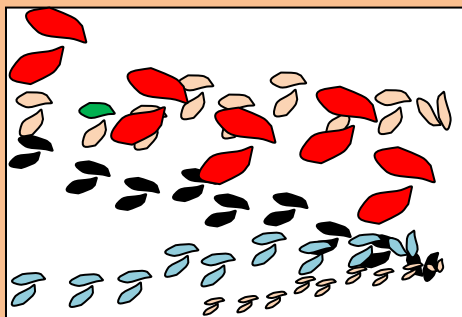


①④はクレヨンでもよい。

動物の足あと、だあれ?

(パレットの使い方：筆の運動を知る遊び)

*四つ切りの画用紙なら5~6色くらい出す。(動物の種類の色数)



- ①ネズミさんが通りましたよ。
 →ネズミになったつもりで筆でお散歩。
 ②猫が通りましたよ。→色を変えてお散歩。
 ③ライオンが…
 →どんどん大きな動物にしていく。
 ※どんなふうにも歩いても配置も色も自由。
 ※好きなものを後で描き足しても楽しい。

海底三万マイル!

(色の濃淡と水の関係を知る遊び)

*細長い画用紙を用意します。

*だんだん浅~く(色の濃淡)を水の量で表しましょう。パレット上で少しずつ出した絵の具に水を加えて色をつかって浅い方にぬっていきます。

→できた子から深海生物や魚などをかくと楽しい。(クレヨンなどでよい。)

*横長にして川にしてもよい。

*何本も並べて掲示するときれいです。

浅い



深い

- ◇水でかくくらしいの気持ちで色を楽しませましょう。
- ◇「色の風船」：風船をたくさんかいて色を乗せて気球をかいたり、「うでのよいペンキ屋さん」：レンガに色をつけていたりするのも楽しいです。「色のビー玉」：たくさんのビー玉を色でかいてピンを描き足すなどもあります。
- ◇色水ペットの造形遊びも楽しいです。